

報告 1

北京市内の外交公寓でイベントに出展

日本大使館からも近い亮馬橋外交公寓（朝陽区）で6月21日午後、第一回「亮馬橋・外交官中外文化秀」が開かれ、私たちも参加しました。

これは、中国の伝統文化・芸術への理解を深め、各国大使館や国際組織の職員、外交公寓に住む住民間の交流を促進するため開かれたもので、当日は40余りの国の外交官、国際組織の代表が公寓に住む住民とともに参加したそうです。

会場では県大連経済事務所の協力を得て、中国向けの通販サイト「新潟館」のPRのため同サイトの販売商品である燕市の高度な金属研磨技術により製造されたタンブラーやぐい呑み、茶筒、爪切りを展示した他、新潟の観光を紹介しました。

広い中庭には多くの関係者が出展し、それぞれの国の民芸品、特産などが展示即売され、来場者には各国の文化等に触れる機会になったようです。（近藤）

<参考> 「新潟館」のHPアドレス <http://emall.chinapay.com/store/289254.html>



県産品を来場者に紹介する中川さん（右、県職員。現在 CLAIR 北京に勤務）と畑副所長



主催者を代表してあいさつする北京外交人員服務局の蔣琪副局長（ステージの上 左）



開幕式 賑やかな中国の獅子舞



民芸品、書画、飲食などが展示即売された会場



ワインの消費量が増えている中国。来場者もイタリア、チリ産などの試飲に手が伸びます。

「2014年北京国際旅遊博覧会 (BITE)」が6月27日から29日までの3日間、北京市内で開催された。今回の博覧会は81の国と地域、27の省市自治区から985社ものブースが並んだ。昨年同様、新潟市・佐渡市も旅行エージェントに対して売り込みを行い、かつ最新の観光情報を得るためにJNTO（日本政府観光局）のジャパンパビリオン内にブース出展した。北京の訪日旅行マーケットはまだまだ成熟しているとは言えず、大阪、京都、東京などを巡るゴールデンルートが目的地として不動の地位を得ている。また、九州、沖縄、北海道旅行も人気がある。新潟・佐渡の知名度はまだ高くはないが、2度3度と日本に行ったことのあるリピーターと話をすると、「米の産地ですね」、「友人が佐渡にいたので行ってみたい」などの返事が返ってきて、北京でも新潟・佐渡に興味を持つ層はいるのだと感じた。

日本と中国の関係は大きく好転したとは言えないが、中国人訪日客数は伸びており、今年は過去最高の200万人に達する可能性もあるという。

北京に住んでみて、中国人は日本について大変興味を持っていると感じる。2012年の国際交流基金の調査では、全世界で約400万人の日本語学習者がいる中で、100万人以上は中国人である。さらに中国人の日本語学習者は前回調査をした2009年と比べるとなんと26.5%増加している。多くの中国人は日本の環境のよさや歴史、ショッピング、温泉、自然などに大きく関心を示し、かつ地理的に近いということからも訪日旅行に魅力を感じている。そこに元高による訪日旅行の割安感や日本の政府・民間企業の積極的な誘致活動もあり中国人訪日客数は今後ますます増加が予想される。

日本政府は2020年までに訪日外客数を2000万人に増やすという目標を掲げており、査証の発給要件の緩和や積極的な海外へのPRなどで順調に訪日外客数を伸ばしている。一方で首都圏のホテルの部屋数やバスの数は増加する外国人客に対応できておらず、その供給が追い付かない部分の宿泊を吸収する意味でも、東京+1の目的地として新潟への外国人客誘致が一つの課題となる。

またマーケットが成熟してくると多様な目的別の旅行ニーズが生まれてくるため、これに対応していくことも必要となってくる。例えば北海道のスキーリゾートでは、中国のスキー場と提携を結び相互交流を行うことで、長期的な視点に立って中国人スキー愛好家の誘致を目指している。

別の例を挙げると、北京市では水需要の増加に供給が追い付かず、1998年以降、市内の地下水位が12.8m下降している。このような水需要と供給能力のギャップを緩和するため、北京市は今年5月からゴルフ場などで使用する水を特殊工業用水に指定した。このことにより、これまで1m³4元だった水道料金が1m³160元になり、ゴルフ場で使用する水道料金は従前の40倍に跳ね上がる計算となる。6月の羊城晩報の記事には、今回の水道料金の増額により今後北京市内でのゴルフのプレー料金が平均で1ラウンド3000元（現在のレートで約49,000円）になるのではという予測が掲載された。今現在はそのような極端な値上げは行われていないが、今後のゴルフのプレー料金の推移如何では、将来的には中国でゴルフ+温泉という海外旅行需要が大きくなるかもしれない。

日本の各自治体や企業の様々な外客誘致に対するアプローチがここ中国でも行われており、今後も北京から新潟に当地の情報を発信していきたいと思う。 (畑)



新潟市・佐渡市ブース



BITE期間中の記者会見の様子

左から、北京事務所霍職員、新潟観光コンベンション協会笠原部長、司会者

報告 3

「中国・ロシア博覧会」に出展

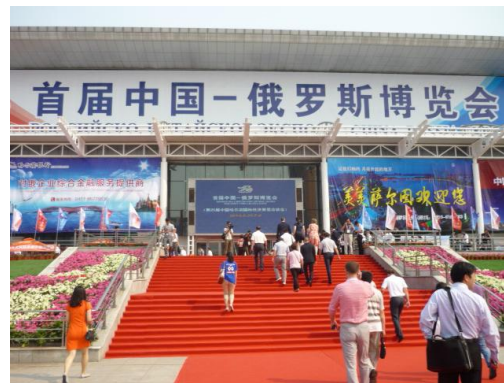
昨年まで24回開かれてきたハルビン国際経済貿易商談会、今年は装いも新たに名称を中国・ロシア博覧会に変え、ハルビン国際コンベンションセンターで6月30日から7月4日まで5日間にわたり開催された。

もともとロシアとの国境貿易が盛んな黒龍江省、昨年の商談会でもロシアとの輸出入契約が全契約の79%を占めていた。今年の主催は中国商務部と黒龍江省人民政府、ロシア経済発展省、ロシア工業・貿易省で、両国が前面に出て経済貿易分野における協力を一層深める機会となった。同国からは30の州と地区が出展したという。その他、両国間で税関・検疫や文化面で幅広い交流が図られた。

また韓国、タイ、香港、台湾などからも多数の企業が出展、来場者で賑わっていた。報道によると、67の国と地域から1万1000人余りの企業関係者が参加、うち約5000人がロシアからの訪問者という。期間中の入場者は延べ28万人に及んだ。

にいがた産業創造機構(NICO)の呼びかけに、新潟市は県内8企業とともに出展、パンフレットやDVDで新潟を紹介した。各企業は家庭用調理器具、包丁、日用品、鋏、昇降機、シリコンスプーン等を展示し来場者の関心を集めた。2年ぶりに出展した企業関係者は中国企業等への製品紹介を通じ、今後の商談継続に期待していた。

日本からは新潟県その他、山形県、北海道などが出展した。(近藤)



博覧会会場入り口



会場内 新潟ブース



同時期に開かれたハルビン
対ロ文化芸術博覧会(スターリン公園にて)